

公益社団法人京都染織文化協会  
平成23年設立事業年度事業計画  
(2011.12.1～2012.3.31)

<基本方針>

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれている。当協会では、染織に関わる所蔵資料やネットワークを通じて、あらゆる方法により一般社会に広く啓発することで染織文化・染織技術への理解と関心を深め、次代に継承していく。

◎公益事業「染織文化資源の保全と啓発事業」

<事業の目的>

- ・所蔵資料（「染織祭衣装」「全国染織産地合同制作布地」）の保全
- ・所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開による知識普及啓発。

<事業のポイント>

- ・資料展示・画像提供の側面（見る）、染織技術公開の側面（知る）から染織大国・京都の認知を上げるとともに、染織文化を一般に広く啓発していく。

<取組み>

■「染織祭」の詳細調査並びに公開

昭和6～15年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」を詳しく調査し、インターネット上で展開するフリー百科事典・ウィキペディアに記載するとともに、当協会所蔵の染織祭ビデオをデータ化し、動画共有サービス・ユーチューブで公開して染織祭並びに染織大国・京都の認知を上げる。

■染織技術アーカイブの作成並びに公開（平成23年最終事業年度事業報告参照）

■染織祭衣装の補修、修繕

■美術館等への染織祭衣装の貸付事業

一般の人々に広く興味を持ってもらうため展示内容に趣向を凝らす。

- ・歴史上の人物や時代にスポットを当てた展覧会への参加
- ・テーマを設定した展覧会

## ◎公益事業「染織技術等継承事業」

### <事業の目的>

- ・日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝え、将来携わる人達を増やす。
- ・染織技術や染織技術を伝える上で欠かせない意匠（文様等）などを一般の人々に伝える。

### <事業のポイント>

- ・染織技術を知る「きっかけ作り」と、携わる意欲を持たせる「興味作り」の機会を作るため、対象年代を分けたアプローチを行う。

### <取組み>

#### ■染織工房見学並びに染織体験（小学校～専門学校）

染織技術の現場を見学する染織工房見学並びに染織体験を行い、実際の技術工程を見たり体験することによって関心を深める。教育機関と連携し開催する。

#### ■染織技術等に関するセミナー（専門学校～一般）

当協会所蔵の染織資料を実際に見てもらい、資料に使われた染織技術をわかりやすく解説するセミナー等を開催する。専門学校には教育機関経由の他、直接アプローチを行い、一般には当協会ウェブサイトや府民だより等の広報機関を利用して参加を促す。

#### ■インターネット上での公開講座（一般）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、当協会ホームページ上で上記講座の動画配信を行う。

## ◎公益事業「染織技術等継承に関わる助成事業」

### <事業の目的>

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取り組むを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業を助成対象とする。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

※助成は後援・協賛等の名義使用の許可、賞状の下附、助成金の拠出等を指す。

### <事業のポイント>

- ・助成の公平性を重視するため、利害関係のない選考委員によるヒアリング審査を行ったあと、理事会にて最終決定する。
- ・助成公募は当協会ウェブサイトにて行い、結果を公表する。

## ◎会員事業「会員向け染織講座事業」

<事業の目的>

会員のために有益な情報を伝える染織講座を開催する。

<取組み>

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化を学ぶものからマーケティング、ビジネス戦略、次代の染織文化に関することなど、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。(年1~2回)

## ◎会員事業「染織業界発展事業」

<事業の目的>

染織技術を継承し次代に発展させるために、その技術をもって現代生活に合った生活用品を創り、一般社会に受け入れられるものづくりを推進していく。

<取組み>

### ■京都ブレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた素材を開発し、現代にあった生活用品を提案。1年かけて企画・開発を行い、翌年に展示会を設けて発表する。